



芹沢銈介の家

Serizawa Keisuke's House

静岡市立芹沢銈介美術館

Shizuoka City Serizawa Keisuke Art Museum



左から、庭のツツジ、1階出窓に掛けられているステンドグラスの試作、芹沢案による家へのアプローチ、1階土間に掛けられている芹沢が収集した奄美大島の面

「芹沢銈介の家」のご案内

どなたでも無料で見学できます。

開館日

美術館開館日の日曜日と祝日(8月は土曜日も見学できます)

開館時間

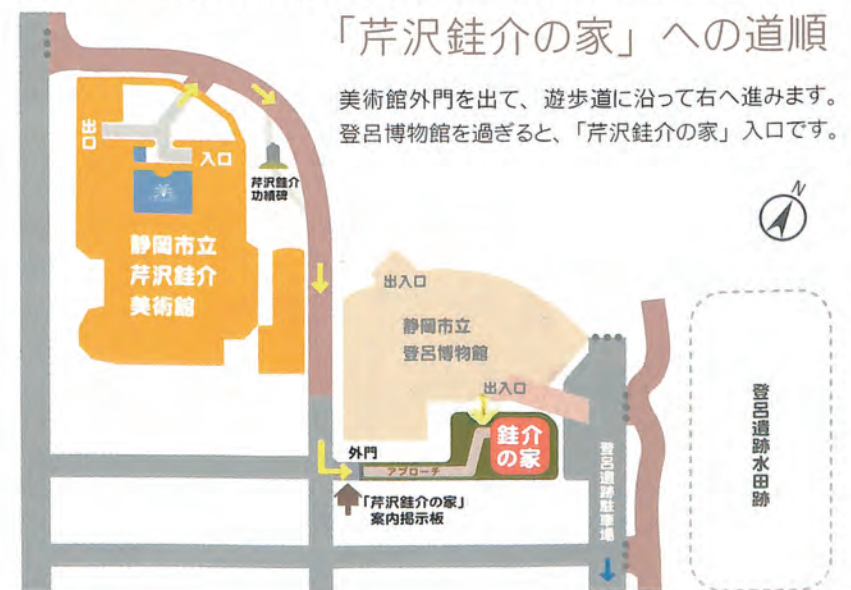
9:00 ~ 16:30 (16:30に閉門)



蒲田から移設した石仏。

「芹沢銈介の家」への道順

美術館外門を出て、遊歩道に沿って右へ進みます。
登呂博物館を過ぎると、「芹沢銈介の家」入口です。



「芹沢銈介の家」は、毎週日曜日と祝日に公開している当館の附属施設です。

芹沢銈介の没後、昭和62(1987)年に、芹沢邸のあった東京・蒲田から移築した二階建ての建物で、一階は土間と十畳の板の間、二階は十畳二間の和室になっています。

芹沢の存命中、一階の板の間は主として応接間として用いられていましたが、作品の構想を練ったり、型紙を彫ったりした創作の場でもありました。

室内には芹沢が収集した家具・木工品・染織品・陶磁器・玩具など、世界中の工芸品があふれており、こうした品々を来訪者の好みに合わせて飾りつけるのも、芹沢の大きな楽しみの一つでした。

静岡市立芹沢銈介美術館

〒422-8033 静岡県静岡市駿河区登呂 5-10-5

TEL: 054-282-5522 <http://www.seribi.jp>

窓際のスペインの机とイギリスの椅子。

「芹沢銈介の家」平面図



④ 自宅応接間でつくる芹沢銈介 (1973年)

「…私の部屋は、先年宮城県北部から古い建物を移築したものである。もとは二つに仕切って床のあるほうに飯米を、土間のほうには農具や野菜を入れていたのを、間の壁をぬいて一部屋にして使っている。二階に十畳二間があり、北側に外屋を建て増した。建具をかえ、南に窓をあけたほかはあまり手を加えず、西に少しふれていたので寒暑ともにしのぎよく、常には客を迎え、おりにふれて惜しげなく居間、仕事場、物置きにも使えて調法している。…」 (芹沢銈介「私の座辺」より)



⑤ 自宅にて、たよ夫人と (1975年12月・撮影：塩津治久・写真提供：静岡新聞社)



⑥ 自宅にて歓談する芹沢銈介 (1976年)

- 建築面積 59.63 m²
- 床面積 1階 (洋間、土間) 48.03 m²
2階 (和室2室、廊下) 57.97 m²
- 敷地面積 485.06 m²
- 移築年月日 昭和62年9月14日

「ぼくの家は、農夫のように平凡で、農夫のように健康です。」



⑦ 「芹沢銈介の家」。昭和62 (1987) 年に、芹沢の自邸のあった東京・蒲田から静岡に移築された。庭の樹木の一部も蒲田から移植されており、往時の雰囲気再現されている。



⑧ 年月を経た板壁。引き戸は芹沢のデザイン。



⑨ 「芹沢銈介の家」室内。メキシコ、イギリス、フランス、日本などの家具、木工等が集う。電灯はフィンランド製。



⑩ 師である柳宗悦の示唆によって南面に開けた出窓。上下に動く障子により、光の調節ができる。



⑪ 芹沢がデザインした鉄製の椅子。



① 宮城県登米市石越町にあった板倉。芹沢はこの板倉を気に入って東京に移築、改装を施して自宅にした。



② 蒲田へ移築後の外観。



③ 蒲田へ移築後の2階和室。